

クラフト点(くらふとてん) | Krafft point

イオン性活性剤は電解質の一種であるため、温度を増加させて行くと溶解度も少しずつ増加するが、ある温度以上にすると溶解度を急激に増加させる。この急激に増加する温度をクラフト点という。これはクラフト点以下では活性剤は単分子状でしか溶解しないが、クラフト点以上の温度になると会合体(ミセル)を形成して、液中にミセル状で溶け込む様になるためである。従って、クラフト点での溶解度は近似的にその活性剤のミセル形成濃度(cmc)に等しいことになる。クラフト点は、一般に活性剤の疎水基の炭素数が長くなるほど高くなり、枝分かれなどがあって結晶性が悪くなるほど低い値になる。

イオン性活性剤はクラフト点以下では溶解度が低く、ミセルも形成しないので界面活性剤としての機能を示さない。

(古澤)